

神戸新聞 2026年05月20日 水曜日 面名 朝文化 13 14ページ



帝京大文化財研究所准教授・佐々木ランディさん 魅力と保護、著作通じ訴え

薄暗い海底に沈んでいる木片は、数百年前の船の一部だった。帝京大文化財研究所准教授の佐々木ランディさんは、海や湖の底に残された痕跡から当時の人々の暮らしを調べる「水中考古学」の専門家だ。古代から近現代まで、扱う時代はさまざま。水中遺跡は「歴史のある時点が明確に見える、タイムカプセルみたいなものです」と、魅力を語る。

有名なのが、長崎県松浦市の鷹島海底遺跡だ。鎌倉時代の元寇船の一部をはじめ、元軍の武器など多くの遺物が出土。海底に突き刺さったばかりの方向などから、実際に嵐が来たことが裏付けられたという。佐々木さんも調査に関わり、使われた木材の種類などから、船が中国で造られたことを明らかにした。「現場検証のような感じで

水中遺跡はタイムカプセル

海底に埋没すると、酸素が遮断され「真空パック」状態で保存される。そのため「陸地で埋もれると分解されてしまうようなものが、水中では残っている可能性がある」

佐々木さんは、日本の水中遺跡は約9割が手つかずとみる。埋め立てなどによって破壊されるおそれがあり、保護の重要性を伝えるのも「ミッションの一つ」。2月には各地の遺跡を紹介した「水中遺跡はそこにある」（ちくまプリマー新書）を出版した。

子どもの頃からシルクロードのような文化の交流に興味があり、「人と海の関わりを歴史」をひもとく研究者の道に進んだ。現在は山梨県在住。富士五湖の一つ、本栖湖で古墳時代の土器などを調べている。

過去に鷹島では、漁師が見つけた、文字らしきものが刻まれた金属が、元軍の将校の印だったことも。「小さな発見が大きな意義を持つことがある。水中遺跡は、実は身近な存在なんです」

「米や茶が大陸から日本に持ち込まれた歴史が、水中遺跡から分かるかもしれない」と話す佐々木ランディさん

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

上の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

- 1 水中考古学とはどのような学問ですか。説明部分を本文中から抜き出し、最初と最後の3文字を答えましょう。

			～				学問
--	--	--	---	--	--	--	----

- 2 長崎県の鷹島海底遺跡に関する次の説明に、適切な語句を考えて入れましょう。

13世紀のユーラシア大陸では[①] 帝国が広大な地域を支配し、中国全土も支配して、「元」と号した。元は日本にも服属を求めたが、執権[②] を中心とする鎌倉幕府はこれを拒んだ。元は[③] 度にわたって日本を攻めたが、鎌倉幕府の御家人たちはこれに応戦し、気象状況にも助けられながら、元の日本侵攻を阻止した。

鷹島海底遺跡は、この戦いの証拠となる貴重な水中遺跡である。

- 3 鷹島海底遺跡の海底に突き刺さったばかりの方向から、わかったことはどんなことですか。

- 4 水中で遺物の保存状態がよいのは、何が遮断されているからですか。

